

年

組
名前

私はこの冬に倍率六倍と言われる都立白鷗高等学校附属中学校に合格した。前年度、都立中学の中でも一番倍率の高かった中学だ。志望校決めから合格までの一年間は、このように思っていた。

志望校決めを行ったのは五年生の春。姉のついでという名目で向かった所が、白鷗中学だった。小学校よりも何倍も大きい図書室に惹かれ、いとも簡単に志望校を決めた。深い志はなかったが、今となっては良かったと思う。

そして一年後の六年生の春、本格的な受験勉強が始まった。週に三回、一回四時間のじく通いの始まりだ。最初こそ、計算、漢字といっただきをやることが明かされたが、次第に難易度か上がり、志望校よりも難しいとされる中学校の過去問を解いたりもした。

そんなこんなで迎えた二月三日、入試本番の日だ。正直、試験中のことはよく覚えていない。問題に夢中になりすぎた為だ。他のこ

とは考えずに、自分の望んだ未来に向かって、
ただひたすらに取り組んだ。

合格までの道は、平らではない。山があつ
たり谷があつたり、時には地獄もあつた。そ
こでどのような反応をするのか。それこそが
合格への分岐点である。